

大阪の教育

大阪教師会

〒596-0814
大阪府岸和田市岡山町
443-13
電話 090 (7363) 9544
振替口座 00910-9-1433

道徳科『深い学び』の授業で

子供に良い変化

平成三十年度、現場では四苦八苦しながら道徳の授業が実施されている。その授業展開や実施状況は定かでない。なぜなら、今まで道徳は評価即ち通知表に記載しないからなおざりになっていた。現在の学校現場では通知表があるから形だけでも二、三週間に1時間ぐらい適当にやっているというのが実態である。教育委員会は現場任せでの確かな指導がなされていない。

ある市では「今年是指導書通りでもいいから週一回は実施して欲しい」と通達を出している。

真面目な教師は、学習指導要領に沿ってすることは当たり前であると考え、アクティブラーニングの考え方に沿って教材研究をし、毎週一回四月から十月まで実践して、確実に効果を出している。

子供にとって楽しい授業をしようと、書籍を求め本屋に行くと、「楽しい道徳の展開」「深い学びになる道徳学習法」「誰でもすぐできる授業法」

などと言った内容の書籍が並んでいる隣に「危ない道徳教科書」というタイトルの書籍の本が数冊目に入った。そこでどのような内容なのか目次を見ると次のような項目である。紙面の都合で気になる項目を数点列挙する。

第一章「押しつけ」道徳

- 「星野君の二塁打」で監督の指示は絶対か
- 「手品師」という教材で「誠実に生きて貧乏」か「不誠実に生きて金持ちか」など結論が一つしか出てこない授業展開になっているという

● 「道徳教科化」のプロセスに隠された政治の意向

第二章「道徳教育」の戦後史

- 「修身」復活論とリベラル教育への反動
- 「教育再生会議」が打ち出した格上げ案
- 読売新聞も社説で「教科化」を批判。「いじめ問題」を奇貨として教科化を主張
- 中教審メンバー「賛成派」に入れ替え
- 量産された完成度の低い教科書では、など

第三章「検定」と教育現場

- 国定教科書化した「わたしたちの道徳」
- 安倍政権が目指した「パイロット版」作り
- ある中学校の珍・道徳授業
- 座学で道徳を学ぼうとする限界

第四章「評価」と「教科書採択」

- 懸念されていた「評価」の弊害
- 教師の間に出回る「評価文例集」
- 教師の資質や能力に左右される道徳授業
- 「答えのない授業」がこれから進む道徳

第五章「道徳」で何を学ぶのか

- 「高学歴」でも道徳心のない人たち

● 若者はお年寄りに席を譲らなければならぬのか

- 教訓として押しつけられる「銀の燭台」の物語
- 丸谷才一の「教科書批判」などがたくさん書かれている

この書籍の著者が元文部官僚で世間を騒がした「ゆとり教育、円周率を「3・14を3でいい」と現場に押しつけた人とわかり驚くばかりである。教育現場が理解できていないようである。「授業とは何か」が分かっている。今時の小学生、中学生の生活、心理と生き方が理解できていないようである。一度一年間小学校または、中学校に勤務して現場を十分体験して、それから書籍を書くことが必要である。内容としては、体験を基に具体的に、「〇〇したら、子供は□□で議論して、深い学びの授業になる」といった実践意欲に繋がるような書籍を書くことを願いたいものである。

以上のような批判本をながめながら共同研究で毎週道徳の授業に取り組み成果をあげている実践記録の一部を紹介する。

対象学年、第五学年三十五名、この学級の実態は第四学年の時に、授業が騒がしい、勝手な行動をするといった、最近では当たり前のような学級で、担任の希望がないといった状況でスタートした。

実践した教材名と授業後の感想を

三人の児童を抽出し紹介し、教師のコメントを紹介する。紙面の都合で全文掲載できないのでご了承いただきたい。

A 児童の授業後の感想

教材名「のび太に学ぼう」

ねらい「これからの自分の生き方」
感想

のび太が点を取らなかつたからわるい。やる気にならないときにはやらなくていいと思う。

教師のコメント

やる気つてとてもむずかしいね。

今なお君の長所を伸ばして欲しいね。

教材名「マンガ家 手塚治虫」

ねらい「自分のよさを見つけ、生き方に繋げる」
感想

なくなつたらしくやしいです。

教師のコメント

てづかおさむのマンガがなくなつたらしくやしいね。てづかさんのまんがよんでね。

教材名「折れたタワー」

ねらい「広いところで分かり合う」
感想

わざとじゃないから、かんにんしてしまふと思う。マスクがいると思う。のりおがわるいと思います。

教師のコメント

君にもこのようなことがありますか。

教材名「美しい夢 ゆめぴりか」

ねらい「働くほこりや喜びを持つ」

感想

ぼくはごはんが美味しいからです。サッカーがすよいと思いました。アイヌが思いました。

教師のコメント

よく考えて、よく書いていますね。次もよろしくね。待っています。

B 児童の授業後の感想

教材名「のび太に学ぼう」

感想

のび太はバツと見たら、ダメなところばかり見ているけど、よく考えるところがいろいろあると思えました。

教師のコメント

あなたはバツと見てとちゆうから良いところがあるんだと発見したところは、すごいね。これからは、その心をばしてね。すごい一年間になると思っています。期待します。

教材名「マンガ家 手塚治虫」

感想

ぼくは、お母さんの注意とかを、その時は「うるさいなあ」と思うけど後から考えれば、これは自分のためだと思えます。

手塚さんがマンガを、始められ、続けられたのは、お母さんや他の人びとのささえがあつたからだと思えます。

教師のコメント

素晴らしい考えですね。自分の生活とかさねて考えたところは、すごいね。引き続き、そのように考えて

ね。期待。

教材名「折れたタワー」

感想

私もマスクを忘れたこともありませす。でもそんなにみんなは怒りません。しかしのりおさんが仕事を壊したの、私は許しません。私だつたらマスクを五回ぐらい忘れたら怒つていたかもしれません。(一週間ずつと)今の考えは真ん中です。やつぱりマスクは衛生面と依田さんが言つた給食も授業と違ってたし、のりおさんみたいにあんなに怒らなくてもいい。

教師のコメント

あなたは「広い心の持ち主ですね」すごいですね。でも心が動いているようですね。びみょうにかんじるので、悩むことが多い。これからのいろいろ悩むことがありますね。

教材名「美しい夢 ゆめぴりか」

感想

「ゆめぴりか」まずよい名前だなあと思いました。十二年と長い年月の品種改良がすごいと思います。わたしの気付いたほこりは、いっぱいありました。これからもほこりを見つけていきたいです。

教師のコメント

あなたはいいものはいいと認められていてすごいですね。そして、「すごい」と感動しているところ、その心はいつまでももち続けてね。それがあなたの誇りになるかもね。

C 児童の授業後の感想

教材名「のび太に学ぼう」

感想

のび太は、いつまでも落ちこまな。だれにでもやさしい、熱い心をもっている。よりよくいきようとすることだと思えます。特に、いつもいじめられているのにすぐに立ち直れるところがのび太の長所だと思います。

教師のコメント

素晴らしい感想ですね。人には、あなたが書いてるように「熱いところ」を持つことが大事でしょうね。結果よりも「熱いところ」ですね。この一年間あなたも「熱いところ」をもって生活してね。期待したいです。

教材名「マンガ家 手塚治虫」

感想

自分のお母さんは正直やさしいと思つています。でもお母さんは、とても悪いことをした時だけにおこります。わたしは、おこられたら、イライラするから、これからはすなおに注意を聞きたいと思えます。

教師のコメント

素晴らしい考えですね。自分の生活と重ねて考えているところは「すごい」ね。ひきつづき、そのように考えてね。期待!!

教材名「折れたタワー」

感想

ひろしが、マスクを忘れたぐらい

で怒鳴るのはひどいと思う。だけど、のりおは、一人で牛乳を運ばなければならぬと思ったから、あんなにおこったと思う。のりおが、ひろしのタワローを壊したのに、ひろしは、許してあげたから、ところが広いと思った。ぼくだったら許す。マスクぐらいわすれても、いいと思う。わざと忘れるのはよくないけど、注意していても、忘れるのは仕方ないと思う。

教師のコメント

ひろし君の「こころの広さ」に気付かされているのはいいね。ぼくだったらゆるす。・「こころの広さだね」これからあなたの「こころの広さ」をみたいですね。楽しみにしています。

教材名「美しい夢 ゆめぴりか」
感想

多くの奈良のおじいちゃんが米を作って知り合いに分けている。そして父はそれを分けてもらい、自分たちもそれを食べています。ほかの米も食べてみたいです。奈良のおじいちゃんが気持ちを入れて作っているのでおうえんしたいです。

教師のコメント

あなたはもの作りをしている人の「こころ」気持ち考えられるのってすごいね。そして、応援するってすごいね。いつまでもその「こころ」大切にね。

考察

今回授業研究ということで、導入

から順に実践報告できればと考えたが、授業の出口を見ることで導入・展開・終末の改善案が考えられると考えた数名の児童のノートを見せられた。また全児童のノートを分析すればいいが、それには分析時間や紙面の都合もあり、抽出児としてA、B、C児童で分析することにした。

先ず、A児童から観ていく。この児童は支援学級に通っているが道徳・図工・体育・音楽・理科などは母集団で授業を受けている。

道徳の教材が理解できなかったり、授業での話し合いの意味内容が理解できない時もある。しかし、教師の支援の仕方や教材が自分にとって関係があれば挙手したり、発言もある。全く理解できない場合は、自分なりの思いをワークすることが出来るので、教師のコメントは、その子の書いた文章について、温かいコメントを書いていく。コメントの内容も理解しやすいように、やる気が起きるように書くことを心掛けている。

これが道徳の出口論ではないだろうか。今回実践研究で『深い学び』の検証ができたといえそう。残り半年授業を充実させることで、道徳の価値観と自分との関わりが一層明らかになると楽しみにしている。

黙って聞いていることが多い、A児童であるが、最近では、発言をする事も増えてきている。さらに他教科でも発言することが増えてきた。

そのためには、引き続き毎週の授業の工夫と子供のノートにコメントを書き、文章評価は欠かせないものであると考えている。

次にB児童について述べる。

赤司久明

文章量も増えていることが分かる。内容を見ると四月当初から二学期後半になると深い読みができ話し合い活動においても積極的になり、感想を見ても深みのある内容になってきている。

50歳を超えてから、生徒の質の悪いので有名なある定時制高校に赴任した。

教育風鈴

定時制の授業の工夫

赤司久明

教材内容の把握から道徳の生活化へと多くの児童が繋がっている。最後にC児童の感想から見ると、四月当初は教材の内容について把握し自分なりの意見や主人公の気持ちを発表したり、文章化しているのが感想文の量的には十分であった。それが授業回数をかさねるに従って身の回りのこと、家族の事、自分自身の事などの事例と比較して考え明日からの生活の中に生かそうとしている文面や他者に働き掛けたいなどの考えが多く表現している。

これが道徳の出口論ではないだろうか。今回実践研究で『深い学び』の検証ができたといえそう。残り半年授業を充実させることで、道徳の価値観と自分との関わりが一層明らかになると楽しみにしている。

最初の授業に3年生の教室に入ったら、さっきまで土方をやっていたという服装の連中が、机の上に座って振り向きもしない。大声で叫んで机に付かせ、やっとの事で出席点呼を取る。見回すとテキストを出して「いる者は誰も無い。教科書は？」というところ、「こころは工業高校だから国語の授業なんか無いんじゃない」とわめく。どうやら今年迄二年間国語の教師は、ゲームとかクイズをしてお守りをしていただけらしい。

「これからはきっちり授業をするから、次からは用意してくるよう」と言って、あらかじめ用意していたプリントを配る。さて説明しようと思いつくと、なんと！平然とうどんを食ってる奴が居る。「授業中にうどん食うな！」と怒鳴ると、筋肉だらけのすごいのが立ち上がって、「なんや、そのものの言い方は！」と言って、私に組み付いてきた。

次の二時限目、プリントを配って授業を始めたら4〜5人固まって何かしている。見るとなんと！トランプをしている。「授業中にトランプをするな！」と怒鳴ると、又々筋肉だらけのすごいのが立ち上がって、「誰にも何を言うんじゃない」といって組み付いてきた。彼らは昼間は筋肉労働をしているのでたくましいのが多く居るのである。

三時限目、授業を始めようと見回すと、後ろで4人で何かをしている。見ると何と！麻雀をしている。「授業中麻雀をするな！」と怒鳴ると、またゴリラのようなのが近づいてきて、「誰にも何をいってやるか、わかっただけか！」と言って組み付いてきた。

どのクラスにも、「次からテキストを持ってくように3度持つてこなかったら単位をやらないから」と言うつと、アホかという顔を「やれるならやってみい」と全員で怒鳴り返された。

東大・京大への進学校から来た私には大変刺激的な初日だった。中学校からの内申書が1ばつかりの生徒達と聞いていたが、なるほどである。

しかし、猛然とファイトが湧いてきて「必ず、前の進学校と同じ授業をしてやる」という思いを固めた。

二時限目から、テキストを開かせ、ページを指示し、指名読みさせる。

「青木君、読んで」と指名すると「なんで俺がよまなあかんのじゃ」とわめく。私は「一行で良い。正しく一行読んだら点をやるから」と猫な

で声で言うつと、「ほんまに一行読んだら点をくれるんやな」とわめく。私は「正しくゆつくり読んだぞ。読めない字があつたら、聞くこと。聞いたら熱心だとして点をやるから」。

「ゆつくり」は特に大事。彼らは、小学校の時に「早く読めば褒める」という教師に会つた犠牲者なのである。

「ゆつくり」「正しく」と板書して、彼が私の指示通りに正しくゆつくり一行読み終わると、「正しくゆつくり読んだな」と褒めて「点をやる」と確認する。彼らは小学校入学以来、教師に褒められたことがない。教師が褒めるのは必ず他の子であり、彼らではない。彼らの心の奥底には「自分も褒められたい」という深い思い

がある。こうして順に指名して、教師の指示通りに読んだ生徒には点を出していくつと、他の生徒も「俺も読んで点をもらおう」という雰囲気になつてくる。こういう話をするつと、必ず「なにもそこまで生徒の機嫌を取らなくても」という教師が居る。こういう教師は、一番肝心なこと――私が授業をしている、私がテキストで生徒を引つ張つている――事が分からないらしい。

人にはそれぞれの心のペースがある。この生徒達は、勉強の理解度が遅いだけであつて、理解できないのではない。遅いが、一旦理解できたら早い子より理解の度が深いことがある。こうして授業を昼の進学校より、数倍きめ細かくゆつくり進むようにしたら、何か言うつとわめてかみついてきた連中が、授業を私と共に楽しむようになり、そうなるつと今度はこつちがビックリするほど何でも私の言うつとを聞くようになつた。

但し半年後である。学年末に120人中40人の単位を落とした。授業中に麻雀をしている奴等に単位は出せない。信賞必罰は生徒に信頼される絶対条件なのだ。小・中九年間教師を憎むだけだつた彼らが、なお教師に親しむ心を持つてくれた事は驚嘆する。彼らに姿勢を正して頭を下げたい思ひだ。

進学校も充分楽しかつたが、この定時制の三年間も忘れがたい。

協賛校名一覽

淀之水学院昇陽高等学校	東大阪大学敬愛高等学校	興國高等学校	履正社高等学校	大阪暁光高等学校	天満学園太成学院大学高等学校
早稲田攝陵中学校・高等学校	相愛中学校・高等学校	清風南海中学校・高等学校	清風中学校・高等学校	四天王寺中学校・高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校
					P・KIDSスクール